

平成22年7月

ごあいさつ



頭取 加藤 善真

皆さまには日頃より青森銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

さて、世界的な金融危機のおおりの受け、大幅な赤字を計上した20年度決算から1年が経過、おかげさまで21年度決算では当初予想を上回る21億円の最終利益を計上することができました。

しかしながら、当行を取り巻く内外の情勢はさらに厳しさを増しており、安穩としてはられません。ひとつには会計基準や自己資本について、世界基準の規制が見直しされる方向にあり、適切な対応を迫られつつあるということが挙げられます。また、地域経済の今後を展望しますと、本年12月に待望の東北新幹線・新青森駅開業のビッグイベントを控えている一方で、人口減少をはじめとする構造変化等を背景に、なかなか明るい将来を見出しにくい状況にあります。さらには、金融再編の加速、異業種による金融業務への参入、あるいは今後に予定されている、ゆうちょ銀行の預入限度額引き上げ問題など、金融業界における競合も一段と激化しております。

おそらく、これまでのやり方を続けるだけでは、青森県という地域も当行も、持続的に成長していくことが非常に困難な時代に入っているものとみられます。こうした時代であればこそ、当行が今までよりも一歩二歩と踏み出した形で地域金融機関としての役割を果たしていかなければならないと考えております。

しかし、やり方は変えていかなければなりません、目指すもの自体は変わりません。

「地域のために お客様とともに 人を大切に」の企業理念を常に再確認しながら、この4月にスタートした中期経営計画に則り、役職員一同、アクティブに新しい姿で地域の発展に向けた努力を続けてまいります。

皆さまには、今後とも一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。